

学習塾は社会問題解決型企业（社会的企業）を目指そう

—学習塾の社会的使命を考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：学習塾の存在意義は何だとお考えですか。**A：基礎教育の充実・発展という社会的な課題の解決だと考えます。**

識字率を向上させ、読み書き計算のできない国民を少なくするうえで、学習塾は長年にわたり多大な貢献を果たしてきました。

たとえば、高校入試において、9年間の義務教育で学んだ内容を十分に理解・定着させ、応用力まで身に付けさせる学習塾の受験指導は、義務教育の成果を飛躍的に向上させるうえで、極めて大きな貢献を果たしてきました。

大学入試において、大学・短期大学・専門学校など高等教育機関での教育や研究の前提となる高校での教育内容の理解・定着・応用を図る学習塾・予備校の受験指導は、高校教育のレベル向上に大きな役割を果たしてきました。

私立中学校、公立中高一貫校入試において、学習塾が行ってきた小学校高学年の児童へのハイレベルの受験指導は、私立中学校や公立中高一貫校でのハイレベルの教育の前提となる論理的分析的思考能力を高めるうえで、大きな役割を果たしてきました。

学習塾での教育は、すべて、小学校での初等教育、中学校や高校での中等教育など「基礎教育」の充実に直結し、社会的課題の解決に貢献しているといえます。

Q：学習塾は貧困からの脱却に役立っていますか。**A：読み書き計算が十分にでき、PCと英語が身に着いており、専門領域の知識・情報・技術を使いこなせたら、貧困からの脱却の可能性は飛躍的に高まります。**

学習塾は、その前提となる小・中・高校での「基礎教育」の充実を図るものなので、貧困からの脱却に役立つ教育機関であると断言できます。

落ちこぼれ対策に最も役立つのが学習塾です。よくわからないところまで遡って、ていねい・親切に指導するのは、映画の「ビリギャル」ではありませんが、学習塾の最も得意とするところです。

映画や小説の「ビリギャル」は、漫画やTVドラマシリーズの「ドラゴン桜」とともに、学習塾で教えるすべての先生にとり、最も役立つ作品と確信します。

Q：学習塾は優秀な人材づくりに役立っていますか。**A：先学年の先取り指導も学習塾の得意技です。伸びる教科は、学年の枠を超えてどんどん伸ばすのが、どこの学習塾でも行っている先取り指導です。公文では、小・中学生に微分積分まで指導し、世界各地で高い評価を得ています。日本の学習塾として誇りに思います。**

Q：社会的企業とは何ですか。

A：社会的課題の解決を目指す企業です。自らの学習塾が解決すべき社会的課題を明確に認識し、その社会的課題解決に向けてすべてのエネルギーを傾注するのが、「社会的企業としての学習塾」です。

自らの「学習塾の社会的使命」を考え、自己責任、自助努力、自分の未来は自分で切り開く、あきらめたらおしまい、これが学習塾だと確信します。

Q：なぜ、今、林さんはこのようなことをおっしゃるのですか。

A：多くの学習塾は、この3月4月が新学年、1学年のスタートだからです。

1年の始まりには、自らのスタートライン、学習塾経営の目的・目標を明確に定め、一つのブレもないように、すべてのスタッフの心一つにして経営にあたる必要があるからです。

「経営」とは、「営」みを「経」て、ゴール・到達点である「目的」地に到着するために、途中経過地であるマイルストーン「目標」地に達成することだと考えます。

自らの学習塾が解決を目指す「社会的課題」を経営の目的（最終到着地）と定め、そのために、新学年度の様々な教育活動を行う、学校での教育を補い、受験指導を行う。これが学習塾だと考えます。

Q：それではお聞きします。開倫塾が解決を目指す社会的課題、開倫塾の「社会的使命」とは何ですか。

A：塾生の「自己学習能力を育成」し、塾生が「多様な選択肢のある人生を歩む」、「成功の実現」に貢献すること。更には、開倫塾のある「地域の教育力向上」、「正常に機能する社会の形成」、「持続可能な社会の発展」に貢献することです。

そのために、開倫塾では、「学力」を「主体的に学ぶ力」と定義づけ、「学び方を学ぶ能力」を身に着けるために「学習の3段階理論」という効果の上がる学習方法を提案し、顧客と「定義」させて頂いた「塾生」「保護者」「地域社会」の皆様にご紹介し続けております。

「読解力」不足は社会問題であると考え、①「新聞」を読んで自分で考える力、批判的思考能力を身に着けること、②「読書」により思慮深さを身に着けること、③「辞書」を活用して語彙力を身に着けることを、開倫塾をあげて推し進めております。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：自らの組織が解決すべき社会的課題や組織の目的・社会的使命を明確にしたうえで、新しい学年に臨んで頂きたいということです。

特に学習塾・予備校は、補助金等、国や自治体からの公的助成を一切受けることなく、自己責任、自助努力で経営するものですから、遠慮は一切することなく、自らの組織の社会的な目的を徹底的に追求し、世のため人のために思い切って活動して頂きたく存じます。

この旗振り役は、塾長や社長、校長、理事長をはじめとする経営幹部の皆様以外に存在しません。

新年度にあたり、教育目標や指導方針、経営理念、経営方針を再度見直し、全スタッフに徹底・浸透を図るにはどうしたらよいかを十分に考えたうえで皆様とお話し合いになることです。企業は

原則倒産です。去年のように今年があればよいと考え、時の流れに身をまかせていたのでは、激しく変動し続ける世界にはついていけません。お互いに頑張りましょう。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も皆様がお読みなれば必ずお役に立つ本を何冊かご紹介させていただきます。

- (1) 1冊目は、学者のみならず、学習塾・予備校・私立学校など学問に関するあらゆる人々の使命と本質を解いたドイツを代表する哲学者、フィヒテ著「学者の使命、学者の本質」岩波文庫、岩波書店 1942年8月20日刊です。
- (2) 2冊目は、力強く生を肯定する人間尊重の思想によって孔子・孟子の原典をいきいきと捉えながら述べている伊藤仁斎著「童子問(どうしもん)」岩波文庫、岩波書店 1970年11月16日刊です。渡部昇一著「伊藤仁斎、童子問に学ぶ―人間修養に近道なし―」致知出版社 2015年12月15日刊を参考書としての併読をお勧めします。同じく、佐藤一斎著「言志四録」岩波文庫、岩波書店 1935年6月30日刊は、孔子・孟子の素晴らしさを再認識させる名著。
- (3) 3冊目は、渡辺修著「オルテガ一人と思想」センチュリー・ブックス、清水書院、1996年8月28日刊です。「大衆の反逆」「個人と社会」「大学の使命」などをの名著したスペインの哲学者、オルテガ・イ・ガセットの極めてわかりやすい入門書。
- (4) 4冊目は、私の尊敬する小林恵智先生の「絶対能動」中経出版 2009年6月23日刊です。人として社会的使命を果たすとは何か、どのように行ったらよいか具体的示されています。是非ご一読を。

2017年12月26日